

## 011-07

### 褥瘡ケアに関するリンクナース育成にかかわって

福島赤十字病院 看護部

○佐藤 美絵、笹木 恵美子、白岩 芳子

【目的】平成23年度から褥瘡管理者となり、入院基本料における褥瘡対策要件である、褥瘡管理に関して臨床経験を有する看護師の育成に取り組んでいる。褥瘡関連の委員会は、院内褥瘡対策チーム会と看護部褥瘡リンクナース会を別に開催していた。しかし、情報の共有やチームでの関わりを強化するため、平成25年度から院内褥瘡対策チーム会と看護部褥瘡対策リンクナース会を同時開催とした。看護部の褥瘡対策リンクナース（以下リンクナース）は、褥瘡ケアの中心メンバーであり、他職種と共に院内褥瘡研修等の運営等に参画している。院内褥瘡発生予防対策は、統一したケア実践等のケア質向上が必要と考える。そこで、平成25年度に取り組んだ、リンクナースが各部署内でスタッフ指導を行い、実践モデルを発揮できる人材を育成する活動を振り返る。

【経過】各リンクナースが、各部署でのケア方法統一に向けた実践活動を計画し、毎月開催の院内褥瘡対策チーム会で進捗状況を確認し、他職種を含めた情報共有を行った。実践した結果は、褥瘡対策委員会内で活動報告の場を設けた。

【結果・考察】各部署のリンクナースが主体となり実践した結果を、褥瘡対策委員会内で発表することが出来た。全部署が同じテーマで取り組んだ状況ではなく全体の評価は難しいが、それぞれの部署内でリンクナースが自部署の現状を把握し、課題まで見出すことが出来た。今後のリンクナースの活躍により、ケア方法の統一が図られ、ケアの質向上が期待できると考える。

## 011-08

### 非国際医療救援拠点病院における要員育成への取り組み成果

武蔵野赤十字病院 看護部<sup>1)</sup>、薬剤部<sup>2)</sup>、事務部<sup>3)</sup>、管理部門<sup>4)</sup>

○渋谷 美奈子<sup>1)</sup>、梅野 幸恵<sup>1)</sup>、朝倉 裕貴<sup>1)</sup>、原田 真理<sup>2)</sup>、青木 達矢<sup>3)</sup>、竹井 多恵<sup>3)</sup>、山崎 隆志<sup>4)</sup>、丸山 洋<sup>4)</sup>

【はじめに】当院では平成25年2月に非公式組織「国際救援クラブ」を設立。非拠点病院の当院で国際救援を志す職員へのサポートをし、院内の理解促進を図り「派遣しやすい環境作り」を意識しながら活動をした。その成果について報告する。

【活動内容】活動は4つの柱を軸に展開した。1) 2カ月毎に全職員対象の講演会、2) 要員に必要な知識の伝達やeラーニングのサポート等を行う勉強会、3) 語学力強化の為、語学研修実施への働きかけ、4) 院外の国際救援関係イベント等の情報提供。

【成果と実績】1) 講演会は誰でも参加できる会とし、これまで国際救援に興味は薄かった層へも理解促進・周知をした。2) 勉強会は一度開催したものの、参加者・講師の確保が難しく継続できなかった。3) 語学研修は教育研修推進室主催の公式研修会とし開催。4) 日赤医療センターのシェアの会へ多くの職員が参加できるようメールやポスターで周知した。この他、特記すべき点はこの1年で延べ5名の職員が海外へ派遣された事であり「派遣しやすい環境作り」を意識し活動してきた成果といえる。

【今後の活動】1) 講演会に院外講師を招聘し、テーマの幅を広げる、2) 及び3) 語研修者を中心に学習をサポート、将来の要員を養成していく、4) 院内での情報提供・共有の為にツールの改善を行う。

【おわりに】当該活動自体が業務外であるため障壁は多いが、非拠点病院として日本赤十字社全施設の国際活動推進の一助となるよう努力を続けていきたい。

## 011-9

### 非国際医療救援拠点病院における語学研修の取り組み

武蔵野赤十字病院 事務部<sup>1)</sup>、看護部<sup>2)</sup>、薬剤部<sup>3)</sup>、精神科部<sup>4)</sup>、栄養課<sup>5)</sup>、臨床工学技術課<sup>6)</sup>、整形外科部<sup>7)</sup>

○鶴田 菜林<sup>1)</sup>、新井 彩<sup>1)</sup>、齊藤 彩乃<sup>2)</sup>、鈴木 智恵<sup>2)</sup>、城田 郁子<sup>2)</sup>、榎本 由美<sup>2)</sup>、川見 美和<sup>2)</sup>、里村 藍子<sup>3)</sup>、池田 美樹<sup>4)</sup>、原 純也<sup>5)</sup>、廣實 伸紀<sup>6)</sup>、山崎 隆志<sup>7)</sup>

【はじめに】平成25年10月から平成26年3月までの6カ月間、非国際医療救援拠点病院の当院にて、海外派遣要員育成に向けた語学研修が初めて実施された。研修受講者が参加に至るまでの背景や研修内容を振り返り、研修から得られた成果について報告する。

【目的】派遣要員の登録に向け、求められるレベルの語学力を身につける。医療英語を学び、通常業務におけるコミュニケーション能力向上に努める。

【内容と成果】ネイティブ講師によるリスニングとスピーキングに特化した90分のレッスンを隔週で受講した。レッスンはビジネス英語や医療英語を用いたディスカッションやロールプレイング等バラエティに富んだ内容で行われ、他職種の受講者が各々の立場から意見交換を行い積極的に取り組んだ。研修から得られた成果は、外部機関による研修実施前後の実力評価テストのスコアを用いて評価する。さらに受講者を対象としたアンケート結果を報告する。

【研修終了後の活動】同年4月、派遣要員に向けての勉強会を継続していくために希望者を募って勉強会グループを発足した。語学研修を受講したメンバーを中心に海外派遣を目指す職員が集まり、語学力向上のための英語によるディスカッション、国際活動に関する情報交換や知識の習得を目的とした勉強会を定期的実施している。発足後の活動内容についても報告する。

【今後の展望】新たなグループの活動を今後より実効的なものとして継続していくと共に、この活動が非拠点病院における国際活動推進の第一歩になることを期待したい。

## 011-10

### 国際救援を志す諸君のために

日本赤十字社和歌山医療センター 国際医療救援部

○藪本 充雄

2013年10月和歌山市において開催された日本赤十字社医学会総会のサテライト企画、「国際医療救援シンポジウム」を主宰したので報告する。約60人が参加し、2時間30分にわたって本音ベースの、実践的、実利的な結果が得られるような討論を行った。半数以上が派遣未経験者であり、まさにこの人たちが本シンポジウムのターゲットであった。

- 1) 日本赤十字社要員が現在活動中のミッションについての概略説明
- 2) 派遣までのモチベーションをいかに維持するか
- 3) 派遣現場での体験の共有
- 4) 職場の上司や同僚から派遣への理解を得る方法
- 5) 家族、配偶者との関係を保つ方法
- 6) 英語の習得方法
- 7) 派遣情報の収集方法
- 8) 活動するための研修紹介が主な議論の内容である。一つ一つの項目における重要な提言をまとめて紹介することで、将来の派遣を志す人への情報を提供したいと考えている。